

# 日本海スルメイカ漁場調査 (抄 録)

鈴木 史 紀

1994年5月～10月に日本海域で、試験船東奥丸（釣機14台、放電灯2kw×60灯）でスルメイカの漁場調査等を実施した。

## 沿岸域におけるスルメイカの動向

1994年本県日本海沿岸域に來遊したスルメイカは、例年並の5月下旬に漁期入りが始まった。

漁獲動向については漁期初めから秋漁が始まった10月までは1990年以降と比べ漁獲水準は高かったが、11月以降低い水準となった。

漁獲当初の銘柄別の漁獲動向から魚体をみると、中型サイズ（1箱5kg、25尾入れ・30尾入れ）主体であったほか小型サイズ（50・60尾入れ以上）の漁獲がみられていたことから発生時期を異にした群構成であったものと考えられる。

試験船の結果からみると、5月の調査海域（北緯37度以南）での分布密度が1993年と比べ高かったことから、これらの群の加入は標識放流結果から推定すると6月・7月に本県沿岸域に加入したものと考えられる。また、9月の成熟個体並びに交接個体の出現状況は、1993年より高い傾向にあったことから秋に発生した群が中心であったものと考えられる。

## 沖合域におけるスルメイカの動向

本県における日本海沖合域からの水揚げ港である八戸・大畑港の水揚げ量は、スルメイカの価格の低迷から太平洋アカイカに出漁する船が増えたため1993年以降減少している。

---

### 発表誌名

平成6年度イカ釣り漁場開発調査資料20号（平成7年5月）及び平成6年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流海洋観測結果基礎資料集（平成7年5月）青森県水産試験場